

## 22 アークヒルズ 仙石山レジデンス

# 真の「ラグジュアリー」を知る人のための新しい空間。

MORI LIVINGの新しい居住空間が誕生した。空間デザインを手がけたインテリア・デザイナー、フィリップ・ユーレル氏に、コンセプトを聞いた。

お問い合わせ：森ビル株式会社 住宅事業部 電話：0120-52-4032 www.moriliving.com

## MORI LIVING

デザイナーに訊く | フィリップ・ユーレル

photo\_ Junpei Kato  
text\_ Kazumi Yamamoto  
edit\_ Jun Ishida



左・ファミリールーム。明るい色と柔らかな色の遊びが心地いい。/右・ラウンジのラグはソファのバイピングと同色を配し、統一感を賢く演出。



メインルームのダイニング、ユーレル氏が座るのはオリジナルチェア (Shara)。シートハイを通常よりも低くし、回転する機能もつけ、ゲストが来て構えずに飲談できるよう工夫した。

お話を伺いました——  
フィリップ・ユーレル氏  
インテリア・デザイナー

ベルギーやアメリカで建築やデザインを学んだ後、祖父が設立した家具メーカーを引き継ぐ。その後、オリジナルの家具コレクションを発表。シンプルで上質なデザインが脚光を浴び、12を超える国々で愛されている。日本ではカッシーナ・イクスシーで取り扱っている。



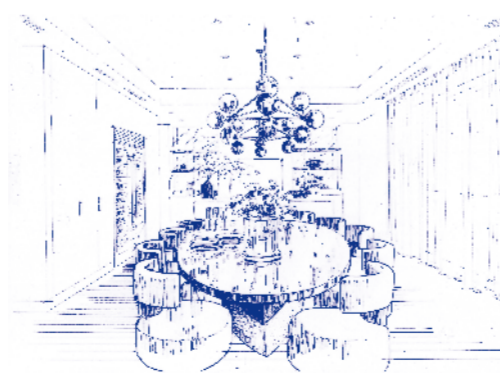
外の景色に繋がるように、リビングはシックな色合いでまとめた。入ってすぐ目に入る既存の柱は、イタリアのモザイクタイルで覆うことで、リビングに広がる各空間の個性を驚くほど調和させている。

「ラグジュアリー」と聞くと、見た目の贅沢さをイメージしがちだが、MORI LIVING が考える「ラグジュアリー」はまったく違う意味を持つ。それは「上質な時間が生み出す上質な体験」であり、真の意味での寛ぎと豊かさを象徴する言葉なのだ。

MORI LIVING とは森ビルが港区を中心に展開する高級レジデンス、そして同時に森ビルが提案する東京の新しいライフスタイルブランドでもある。そのMORI LIVING が、フランスで活躍するインテリア・デザイナー、フィリップ・ユーレル氏を招聘し、「アークヒルズ 仙石山レジデンス」にこれまでにないモデルルームを誕生させた。完成にあたり来日したユー

レル氏に、今回のプロジェクトについて伺った。

—— 今回のプロジェクトを担う上で MORI LIVING のどのような部分に共鳴したかを教えてください。フィリップ・ユーレル (以下H) 初めてアークヒルズ 仙石山レジデンスの下見に来たときに、MORI LIVING は東京における最高峰のレジデンスを担うリーダー的存在であるという気概を、理想的な天高、窓口の開口部、その先の景色などあらゆる側面において感じ取ることができました。また、MORI LIVING の考える「ラグジュアリー」と私どもが意図するそれと驚くほど一致していたのがポイントでした。そこで我々は、清楚でありながら、真の意味での心の贅沢



ユーレル氏が最初にイメージしたメインダイニングのデザイン。

が得られ、時を超えていつまでもラグジュアリーであることを実感できる空間作りを考えました。

——その空間哲学を、どのようにデザインに落とし込んでいったのでしょうか？

H 今回のプロジェクトを成功させるうえで、4つのテーマを考えました。「永遠性」「静謐」「洗練」そして「透明性」です。そこで、私どもが時間を割き、究めたのが素材やテキスタイルの選定でした。色のコントラストや色の足し算。例えば、メインリビングのソファ (Randolphe) や (Lit de Paresse) の張り地だけでもあわせて5色の素材を使っています。それぞれのテキスタイルが織り成すハーモニー

を徹底的に吟味した結果、必然的にそうなったのです。テキスタイルで遊ぶ、というのはヨーロッパでも最高級のラグジュアリー。ものごとの極みを知り尽くしている方が住まうことを想定すると、そういったディテールへのこだわりが非常に重要なのです。

——各部屋ごとにカラートーンや趣が違いますね。H メインルームはユニバーサルリティを意識して、ニュートラルで清楚で美しい空間に仕上げました。ファミリールームはコミュニケーションがより活発になるように、遊び心を取り入れたカラートーンです。全体を通してちょっとひねりを効かせた色使いをしている点がフランス流の「シック」といえます。

——デザインする上で日本や東京を意識しましたか？

H MORI LIVING のインターナショナルな住まい手を想定し、日本とフランスのアル・ド・ヴィーブル (生活様式) の双方を考慮して、それぞれの文化的要素が反映された素材や技法を用いています。フランスの要素であれば、ラグ、アート、木材の彫刻などはフランスの伝統的なノウハウを引き継ぐ秀逸なアーティストや職人の手によるものを選びました。

——完成した空間をご覧になっていかがですか？  
H 私もここに住みたい (笑)。住まいが快適で遊び心があり、かつリラックスできることは重要です。人生の3分の1は家で過ごすのですから。